40年のあゆみ

開園当初（1974年）の園内

園内風景

1973年 開園セレモニー

1975年 第1回サマースクール

1980年 サル山築造工事

1981年 サル山完成後

自然に囲まれた憩いの場がオープン。

1973-1983

1973年9月1日、大森山動物園が開園しました。当時の面積は約8.8ヘクタール、飼育動物は93種280点、開園当初の人気者は児童動物園から引き継いだアシカやライオンでしたが、その後、シマウマ、ダチョウ、カンガルーなどが加わり、園内のにぎわいが増えてきました。1980年にはブラジル秋田県人会からの寄贈でパカが来園し、1981年には京都府宇治田原町で捕獲されたニホンザル33頭を入れたサル山の展示を開始、さらに1982年には中国蘭州市から友好都市条約締結の記念としてフタコブラクダのつがい（オス蘭泉（らんせん）とメス田田（てんてん））が贈られるなど、動物園は国際親善動物を含め相次いで整備されました。当時の歴史は、今も続くサル山人気やフタコブラクダの子孫（12頭）を全国に広める功績など、現在の大森山動物園発展の基礎となりました。

動物園のソフト事業が始まったのも開園当初の頃からでした。1975年に「一日飼育係・サマースクール」が、1978年には写生大会など、現在も続く夏の行事が始まりました。

1983年には、開園10周年の記念に、タンチョウの展示やジャイアントパンダ（ランラン）の剥製が資料館で展示され、大勢の方にご覧いただきました。

翌年の1984年、上野動物園所有で米国生まれのオス・シゲタがタンチョウ展示に加わり、タンチョウの展示が強化されました。オスのシゲタは現在も生き続けています。

1985年には、児童動物園から引き継いだライオンのチャコが47頭の出産記録を残して亡くなり、代わりに桐生が岡動物園からオスのリュウとメスのミカがやってきました。

1987年、園内にある沼「塩曳潟（しおひきがた）」に架かる木製のひょうたん橋がコンクリート製の橋に架け替えられました。また、この年には、繁殖したフタコブラクダとの交換でおびひろ動物園からシンリンオオカミ、旭山動物園からエゾシカが仲間入りしました。

1988年、ブラジル秋田県人会からコモンマーモセット、アカハナグマ、フサオマキザルが寄贈されたほか、小動物との「ふれあい教室」が常設開催となりました。これらは現在の新世界ザル舎「さるっこの森」、そして「ふれあいランド」へと発展して現在に至っています。さらに、現在の大森山動物園の中心施設とも言えるゾウ・キリン舎の建設計画が秋田市制100周年記念事業として決定したのも、この年でした。

1990年秋には、ゾウ舎完成前に南アフリカからアフリカゾウ2頭（1歳前後）が来園、改造したラクダ舎で越冬させました。翌1991年3月、大型動物舎が完成、ゾウを園内移動させ、また多摩動物公園よりアミメキリンを導入して3月26日にはオープン式が行われました。同年度の入園者数は35万人を超え、過去最高のにぎわいとなりました。

1993年には開園20周年を迎え、記念講演会や式典などで祝い、インコ類を展示する小型鳥類舎の完成やキリンの初繁殖など、話題も豊富でした。

アフリカゾウとアミメキリンが来園。

1984-1993

つがいのタンチョウを飼育

ふれあい教室

1991年 展示を始めた仔ゾウ

1990年 ゾウの搬入

1991年 来園時のキリン